



アイヌ語で「広場」の意味
文 北原モコッドウナシ・瀧口夕美 絵 小笠原小夜

イペアンロー!

(いただきます)

今日はカボチャのラタシケアをごしうかいします。

ラタシケアは、材料によっていろいろな種類があり、コウシ・ラタシケア(ねばねばする・まぜたもの)は、カボチャや豆、トウモロコシなど干して保存できる材料を、水でもどしてよくにこみ、ねりあげて作ります。ご先祖様にのるときなど、大きな行事に欠かせない料理のひとつです。

よく入れるのはシケレベ(キハダの美)です。シケレベニ(キハダの木)はミカン科なので、かむとオレンジの皮のようなにおりがして、苦味があります。苦手な人もいますが、ラタシケアの味のアクセントになります。シケレベはかぜやぜんそく、のどの痛みにもきくとわれます。よくにつめて、ときどきなめたり、お湯でといて飲んだそうです。



カンピラシ(本)

伝統のアイヌ文様構成法による「アイヌ刺しゅう入門」

(チヂリ編、カバラミツ編、ルウンベ編) 津田命子

いまから200年以上前。アイヌの着物の作り手たちは、目盛りの入ったものさしや、筆記用具、紙やチャコペーパー(印付けに使う複写紙)など、現代の手芸で使われている便利な道具を持っていませんでした。なのに、どうやってこんなに複雑な文様を刺しゅうすることができたんだろう? 著者はそんな疑問を持って、300以上の古い着物などを細かく調べました。

アイヌ文様の刺しゅうのしかたは、大きく3種類に分けられます。その特徴ごとに、3分冊の入門書としてまとめられています。

入門とはいえ、小学生には少しむずかしいかもしれませんが、それでも、アイヌ文

私の家族も、シケレベニがある場所を覚えていて、実が黒く色づいたらとりに行き、干して送ってくれます。シケレベが手に入れば、ぜひ入れてほしいですが、なくても、おいしく出来上がります。

カボチャのラタシケア(カボチャのまぜに)

◇材料(作りやすい分量)

カボチャ 4分の1個

トウモロコシ 30〜50g

金時豆(かためににたもの) おたま2〜3ばい

シケレベ(前日から水でふやかしておく)

20〜30つぶ

クルミ 10〜20g

砂糖 大さじ3(好みの量)

塩 小さじ2分の1(好みの量)

上新粉 大さじ3ほど

クルミ油(ほかの油でもよい) 大さじ4〜5

◇作り方

①カボチャは種をとり、一口大に切っ

てなべに入れ、かぶるぐらいの水を入れて

にる。

②カボチャに火が通ったら、金時豆と

トウモロコシ、シケレベを入れ、よくまぜ

る。

③砂糖、塩、油を入れて味をつけたら、

上新粉を少しずつ入れ、弱火でねりな

がらまぜて出来上がり。豆は、に豆にす

るものならなんでもよい。パックやかん

づめを使うと簡単です。トウモロコシも

かんづめや冷凍でよい。

アイヌ語でヤウンモシリだってばよ



北海道は資源豊かな大地だった



和人が来て150年たったか



1869年 北海道と名付けられる

1871年 戸籍法制定、アイヌを日本国籍にし、日本語教育布達

アイヌ式そうぎ、入れすみ、男性の耳かざり禁止

1875年 「樺太・千島交換条約」で樺太アイヌが強制移住

1876年 弓矢のしゅりょう禁止

1878年 サケは札幌郡内から禁漁になっていく

1884年 千島アイヌがシュムシュ島から色丹島へ強制移住

1889年 シカリょう禁止

1945年 日本敗戦のため千島、樺太アイヌが北海道へ移住

1997年 「アイヌ文化振興法」公布、「旧土人保護法」廃止

1869年

1871年

アイヌ式そうぎ、入れすみ、男性の耳かざり禁止

1875年

1876年

1878年

1884年

1889年

1945年

1997年

北海道と名付けられる

戸籍法制定、アイヌを日本国籍にし、日本語教育布達

アイヌ式そうぎ、入れすみ、男性の耳かざり禁止

「樺太・千島交換条約」で樺太アイヌが強制移住

弓矢のしゅりょう禁止

サケは札幌郡内から禁漁になっていく

千島アイヌがシュムシュ島から色丹島へ強制移住

シカリょう禁止

日本敗戦のため千島、樺太アイヌが北海道へ移住

「アイヌ文化振興法」公布、「旧土人保護法」廃止

北海道と名付けられる

戸籍法制定、アイヌを日本国籍にし、日本語教育布達

アイヌ式そうぎ、入れすみ、男性の耳かざり禁止

「樺太・千島交換条約」で樺太アイヌが強制移住

弓矢のしゅりょう禁止

サケは札幌郡内から禁漁になっていく

千島アイヌがシュムシュ島から色丹島へ強制移住

シカリょう禁止

日本敗戦のため千島、樺太アイヌが北海道へ移住

「アイヌ文化振興法」公布、「旧土人保護法」廃止

北海道と名付けられる

戸籍法制定、アイヌを日本国籍にし、日本語教育布達

アイヌ式そうぎ、入れすみ、男性の耳かざり禁止

「樺太・千島交換条約」で樺太アイヌが強制移住

弓矢のしゅりょう禁止

サケは札幌郡内から禁漁になっていく

千島アイヌがシュムシュ島から色丹島へ強制移住

シカリょう禁止

日本敗戦のため千島、樺太アイヌが北海道へ移住

「アイヌ文化振興法」公布、「旧土人保護法」廃止

今日から蝦夷地を北海道と呼ぼう



北海道はあれだ
未開地だった



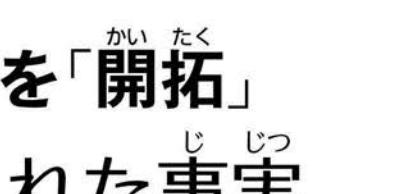
北海道を開拓して150年たったなあ



その先の、道へ。北海道
2018年は北海道命名150年



2068年?



「フムフム」はアイヌ語でのあいづち

11月の第4木曜日はアメリカ合衆国の祝日で、各地で「感謝祭(サンクスギビング)」という先住民族にちなむ行事が行われます。ところが、この行事は先住民族から批判されています。感謝祭の物語は「ヨーロッパ人が先住民族に受け入れられ、仲良くした」という美しい部分ばかりがしうかいされ、ヨーロッパ人の略奪などで多くの先住民族が亡くなった、その後も差別が続いてきたりしたことが語られないのです。

オーストラリアでも、国の記念日に先住民族による大規模な抗議が起こったことがあります。1988年はヨーロッパ人がオーストラリアに来て200年にあたり、お祝いの計画が立ちました。しかし、アボリジニにとって、この200年は多くの仲間が苦しめられ、亡くなった時代です。節目を祝うのではなく、死者を思い起こして、いたむことをうったえたのです。

今年9月に「アイヌから見た北海道150年」という本が出ました。2018年には「北海道」という名前がついてから150年目にあたることを祝う行事が行われました。ただ、アイヌの中には、複雑な思いを持つ人々もいました。

「開拓」100年を祝う催しがあった50年前にも、抗議が起きました。和人による「開拓」は、アイヌのくらしを壊すことから始まり、アイヌ民族は土地を失い、伝染病やうえで多くの人が亡くなったからです。しかし、こうしたうったえは、ほとんど聞かれることなく、お祝いの

先住民族の土地を「開拓」
祝いの声に消された事実



声でかき消されていきました。

2018年には「開拓」という言葉をやめ、アイヌ文化をしょうかいする行事もありました。ただ、それ以上に松浦武四郎をはじめ「アイヌに親切だった」人の物語がたくさんしょう

かいされました。

歴史をふり返る時には、双方からの視点が大切です。「アイヌから見た」という表現には、そういう意味がこめられています。

きょうの目とば

感謝祭

(サンクスギビング)

1620年、イギリスからアメリカのマサチューセッツ州に移住した人々は、慣れない土地での生活に苦勞しました。そのとき、先住民族のワンパノアグ民族に助けられたので、感謝のパーティーを開きました。これが後に感謝祭になったと言われています。

この2年前に、ワンパノアグ民族は伝染病でほとんどが亡くなりました。イギリス人にとられ、どれいとしてスペインへ売られる事件も起きていま

した。初めは親しかった人々もやがて戦うことになり、ワンパノアグの王は殺され、人々はどれいにされました。戦いの勝利を祝う時にも感謝祭が行われました。ワンパノアグ民族は、感謝祭の日を「あいとうの日」とし、ぎせいになった人々をしのんでいます。

開拓

今からおよそ50年前には「開拓100年」を祝う行事が行われ、アイヌ民族から抗議の声があがりました。「開拓」という言葉は、あれ地や未開の土地、つまりだれも住んでいない土地を使えるようにするという前向きな言葉です。

しかし、私たちアイヌ民族は、和人が来る以前から自分たちの考えやルールによって土地を使ってきました。和人の政府は、そのルールを無視して制度を作り、私たちの土地を売り、住むところやくらし方、言葉までも和人が決めたことに従わせました。

さらに、アイヌ民族は長いあいだ「もうほとんどいない」「ほろびた」と言われました。「開拓」の言葉は、アイヌ民族をますます見えなくしてしまします。